預言者伝（スィーラ）

第 4 巻

サファーの丘からの呼びかけ

クルアーンと真正なハディースに基づく公然の宣教とハバシャへの移住



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 4 巻

サファーの丘からの呼びかけ

クルアーンと真正なハディースに基づく、公然の宣教、クライシュ族の反対、そしてハバシャへの移住

فَٱصْدَعْ بِمَا تُؤْمَرُ وَأَعْرِضْ عَنِ ٱلْمُشْرِكِينَ

「だからあなたが命じられたことを宣揚しなさい。そして多神教徒から遠ざかれ。」

アル・ヒジュル章 15:94

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

嘲る者たちからその使徒を守り、試練のときに教友たちの心を堅固にされたアッラーに一切の称賛あれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』の第 4 巻は、アッラーの使徒 ﷺ のサファーの丘での公然の呼びかけから、クライシュ族の嘲笑と迫害を経て、教友たちがハバシャの公正な王の国へ移住するまでをたどります。かれらの忍耐が私たちを強めてくれますように。そしてこの知識が「イルムン・ユンタファウ・ビヒ」、すなわち役に立つ知識となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には人物は描かれていません。描かれているのは**夜明けのサファーの丘**です。マッカの谷のほとりにある低い岩山で、**朝の陽光**が丘の向こうから差し込み、谷全体とその下にある**カアバ**を照らしています。

サファーの丘から広がる光は、本書で語られるとおり、クライシュ族全体に向けて初めて公然と伝えられたイスラームの呼びかけを象徴しています。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

目次

サファーの丘からの呼びかけ — はじめに

1. 秘密から公然へ — アル・ヒジュル章 15:94–95

2. 近親への呼びかけ — 『サヒーフ・ブハーリー』4771

3. サファーの丘の上で — 『サヒーフ・ブハーリー』4770

4. アブー・ラハブとその妻 — スィーラの注

5. クライシュ族の非難 — 非難と反論の表

6. アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ：行き詰まった論法 — 衣をまとう者章 74:18–25

7. アブー・ターリブを通じた圧力 — スィーラの注

8. 妥協の申し出と不信者たち章 — 不信者たち章 109:1–6

9. カアバのそばで苦しめられたアッラーの使徒ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』240

10. 預言者を守ったアブー・バクル — 『サヒーフ・ブハーリー』3678

11. 弱い者たちへの迫害 — スィーラの注

12. 「だが、あなたがたは急いでいる」 — 『サヒーフ・ブハーリー』3612

13. 解放のための財産 — スィーラの注

14. なぜ彼らは揺るがなかったのか — 理由の表

15. 星章とともに捧げられたサジダ — 『サヒーフ・ブハーリー』1071

16. 最初のハバシャへの移住 — 経路図

17. アクスム王国：公正な王の国 — 歴史の注

18. 二度目の移住とクライシュ族の使節 — 移住者数の図

19. ナジャーシーの前でのジャアファルの演説 — スィーラの注

20. ナジャーシー：葬儀の礼拝を捧げられた王 — 『サヒーフ・ブハーリー』3877

21. ハムザとウマルの入信 — 『サヒーフ・ブハーリー』3863

22. 真正な伝承と有名な話のあいだ — 伝承の評価

23. 本巻に登場する主な場所 — サファーの丘からアクスムまで

24. 紅海を渡る — 移住の経路とアラブとハバシャの関係

25. 歴史の足跡：考古学の記録に見るアクスム王国 — 硬貨、石碑、ネガシュ

26. このシリーズの人物 — 人物の表

27. 年表：スィーラと世界 — 613–630 年の出来事の表

28. よくある質問 — 12 の質問

29. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

サファーの丘からの呼びかけ

『預言者伝』第3巻は、三年間の秘密の宣教と、ダール・アル＝アルカムに集った少数の信者たちで幕を閉じました。この第4巻は、その宣教が**社会の真ん中へと出て行った**とき何が起きたのかを語ります。サファーの丘での呼びかけ、嘲笑と非難、妥協の申し出、アッラーの使徒 ﷺ と弱い立場の教友たちへの迫害、そして**イスラームにおける最初の移住**――ハバシャの公正な王の国への移住です。

本書のクルアーンの節と真正なハディースは、本当に関係のあるものだけを慎重に選びました。スィーラ書（預言者伝の書物）の話は「スィーラの注」の枠に入れ、その信頼度を示しています。非常に有名でも伝承経路の弱い話は、そのことをはっきり示しました。

年表：公然の宣教からハバシャへの移住まで（613〜616年ごろ）

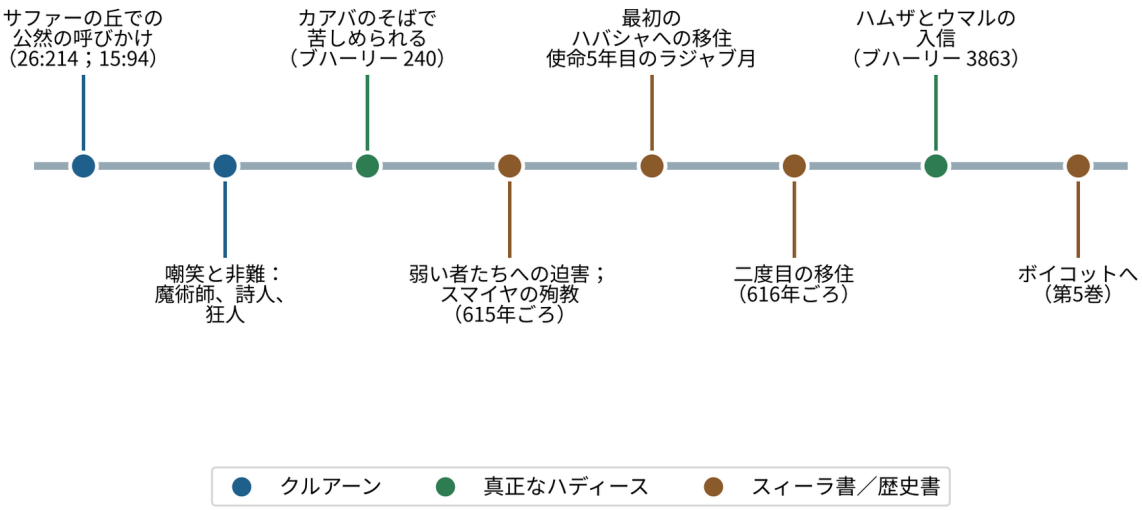


図1：公然の宣教からハバシャへの移住までの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

秘密から公然へ

約三年にわたる秘密の宣教の後、すべてを変える命令が下されました。アッラーはその使徒に、使命を**公然と**伝えるよう命じられたのです。

アル・ヒジュル章 15:94–95

فَٱصۡدَعۡ بِمَا تُؤۡمَرُ وَأَعۡرِضۡ عَنِ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ٩٤

だからあなたが命じられたことを宣揚しなさい。そして多神教徒から遠ざかれ。

إِنَّا كَفَيۡنَٰكَ ٱلۡمُسۡتَهۡزِءِينَ ٩٥

本当にわれは、嘲笑する者に対し、あなたを十分に守ってやる。

訳：三田了一 — quran.com/15:94-95

15:94–95 の解説

アッラーはこう仰せられます。「**命じられたことを公然と宣べ伝えよ**」。イブン・カスィールは、この節が多神教徒の反対を気にかけず、すべての人々に**公然と**使命を伝えるよう預言者に命じたものだと説明しています。『イブン・カスィールのタフスィール』15:94。

続く節は保証を与えます。「**本当にわれは、嘲笑する者に対し、あなたを守るであろう**」。イブン・カスィールは、預言者を嘲笑したことで知られるクライシュ族の有力者たちとして、**アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ**や**アル＝アース・ブン・ワーイル**の名を挙げ、アッラーがいかにかれらの悪から預言者を守られたかを述べています。『イブン・カスィールのタフスィール』15:95。

この二つの節の順序に注目してください。**命令**には**保証**が伴っています。アッラーはその使徒を、守りなしにクライシュ族と向き合わせることはなさいませんでした。これはスィーラの中で繰り返される原則です。重い務めには、アッラーの助けが伴うのです。

さらに命令が下されました。「**あなたの近親者に警告しなさい**」（詩人たち章26:214）、続いて「**あなたに従う信者たちに対しては、あなたの翼を低く垂れなさい**」（26:215）。公然の宣教は最も近い家族から始まり、信者への優しさを伴うものでした。

近親への呼びかけ

26:214 の節が下ると、アッラーの使徒 ﷺ はすぐにそれを実行されました。クライシュ族の諸氏族に一つずつ呼びかけ、次に自らの家族――おじ、おば、そして最愛の娘にまで――呼びかけられたのです。

ハディース――『サヒーフ・ブハーリー』第 4771 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي سَعِيدُ بْنُ الْمُسَيَّبِ، وَأَبُو سَلَمَةَ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ أَنَّ أَبَا هُرَيْرَةَ، قَالَ قَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حِينَ أَنْزَلَ اللَّهُ {وَأَنْذِرْ عَشِيرَتَكَ الأَقْرَبِينَ} قَالَ «يَا مَعْشَرَ قُرَيْشٍ ـ أَوْ كَلِمَةً نَحْوَهَا ـ اشْتَرُوا أَنْفُسَكُمْ، لاَ أُغْنِي عَنْكُمْ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا، يَا بَنِي عَبْدِ مَنَافٍ، لاَ أُغْنِي عَنْكُمْ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا، يَا عَبَّاسُ بْنَ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ، لاَ أُغْنِي عَنْكَ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا، وَيَا صَفِيَّةُ عَمَّةَ رَسُولِ اللَّهِ، لاَ أُغْنِي عَنْكِ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا وَيَا فَاطِمَةُ بِنْتَ مُحَمَّدٍ سَلِينِي مَا شِئْتِ مِنْ مَالِي، لاَ أُغْنِي عَنْكِ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا». تَابَعَهُ أَصْبَغُ عَنِ ابْنِ وَهْبٍ عَنْ يُونُسَ عَنِ ابْنِ شِهَابٍ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。アッラーが「あなたの近親者に警告しなさい」という節を下されたとき、アッラーの使徒 ﷺ は立ち上がって言われた。「**クライシュの人々よ――あるいはそれに似た言葉で――自分自身を救いなさい。わたしはアッラー（の懲罰）からあなたがたを少しも助けることはできない。アブド・マナーフ一族よ、わたしはアッラーからあなたがたを少しも助けることはできない。アッバース・ブン・アブドルムッタリブよ、わたしはアッラーからあなたを少しも助けることはできない。アッラーの使徒のおばサフィーヤよ、わたしはアッラーからあなたを少しも助けることはできない。ムハンマドの娘ファーティマよ、わたしの財産から望むものを求めなさい。だが、わたしはアッラーからあなたを少しも助けることはできない。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブル・ヤマーン ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← アッ＝ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ と アブー・サラマ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブー・フライラ رضى الله عنه。アスバグ ← イブン・ワ

フブ ← ユーヌス ← イブン・シハーブの伝承も（ムターバアとして）これを補強している。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、詩人たち章、ハディース第 4771 番。ムスリム（第 206 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4771

このハディースの教訓

このハディースには信仰の基本原則が含まれています。アッラーの御前では**一人ひとりが自分自身に責任を負う**ということです。家柄も、預言者との血縁も、たとえ預言者自身の子であっても、信仰と行いなしに人を救うことはありません。

家柄を非常に誇るクライシュ族の社会にとって、この言葉は大きな衝撃でした。アブド・マナーフ一族は最も高貴な氏族でしたが、預言者は、氏族の栄誉はアッラーの御前では**何の価値もない**と明言されたのです。

教訓：家名や学者の家系、地位に頼ってはなりません。**信仰と行い**こそが唯一の備えなのです。

サファーの丘の上で

公然の宣教で最も有名な出来事は**サファーの丘での呼びかけ**です。アル＝アミーンという呼び名を示す出来事として、第 2 巻ですでに読みました。アッラーの使徒 ﷺ はサファーに登り、クライシュ族の諸氏族が集まるまで呼びかけられました（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

段階	英知
高い場所に登る	アラブ人が危険を知らせるときのやり方。誰もが注意を向ける。
問いかける：「あなたがたはわたしを信じるか」	伝える前にまず信頼を築く。
彼らは答えた：「あなたが嘘をついたことは一度もない」	預言者の誠実さを皆が認めた証言。
「わたしは激しい懲罰を前にした警告者である」	核心のメッセージを明確かつ簡潔に伝える。

預言者の方法は非常に賢明でした。まず**相手自身が認めていること**――ご自分の誠実さ――から始め、そのうえでまだ受け入れていないことを伝えられたのです。今日の宣教者もこの方法から学ぶことができます。

しかし最初の返答は、実のおじである**アブー・ラハブ**から来ました。「お前など滅びてしまえ。このためにわれわれを集めたのか」。そこで**棕櫚章**が下されました。「アブー・ラハブの両手は滅び、かれも滅びてしまえ」（111:1）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ラハブとその妻

スィーラの注：敵対したおじ

ウィキペディアによれば、**アブー・ラハブ**――本名はアブド・アル＝ウッザー・ブン・アブドルムッタリブ――は、**おじ**としてアッラーの使徒 ﷺ の身内にあたる人物でした。かれの二人の息子は、預言者の二人の娘ルカイヤとウンム・クルスームと婚約していましたが、預言者が宣教を始めた後に解消されました。

その妻**ウンム・ジャミール**・ビント・ハルブ――アブー・スフヤーンの姉妹――もまた預言者に敵対しました。クルアーンはかの女を「**薪を運ぶ女**」と呼んでいます（棕櫚章 111:4）。アブー・ラハブはバドルの戦いの後まもなく死にました。

参照：

ウィキペディア「Abu Lahab」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Lahab

棕櫚章に見る奇跡

この章は、アブー・ラハブが**地獄の火に入る**と告げています。つまり、かれは不信のまま死ぬということです。この章はかれの死の何年も前に下されました。アブー・ラハブは、クルアーンが誤りであることを「証明」するために、**見せかけだけでも**イスラームに入信することができたはずですが、そうはしませんでした。こうしてこれは正確な**クルアーンの予告**となったのです。

教訓：血縁は導きを保証しません。最も近いおじが敵となる一方で、ハバシャ出身のビラールのような他人が最も忠実な兄弟となりました。**導きはアッラーのものです**。

クライシュ族の非難

クライシュ族は預言者の誠実さを否定できなかったため、人々をかれから遠ざけるための**レッテル**を探しました。クルアーンはそれらの非難を記録し、一つずつ反論しています。

クライシュ族の非難	クルアーンの反論
「狂人」（アル・ヒジュル章 15:6）	あなたは主の恩恵により、狂人ではない（筆章 68:2）。
「嘘つきの魔術師」（サード章 38:4）	かれらは、自分たちの中から警告者が来たことに驚いている（38:4）。
「詩人」（預言者章 21:5）	これは詩人の言葉ではない。あなたがたはほとんど信じない（真実章 69:41）。
「占い師」（カーヒン）	これは占い師の言葉でもない。あなたがたはほとんど反省しない（69:42）。
「ある人間に教えられた」	かれらが名指しする者の言葉は外国語であるが、クルアーンは明瞭なアラビア語である（蜜蜂章 16:103）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

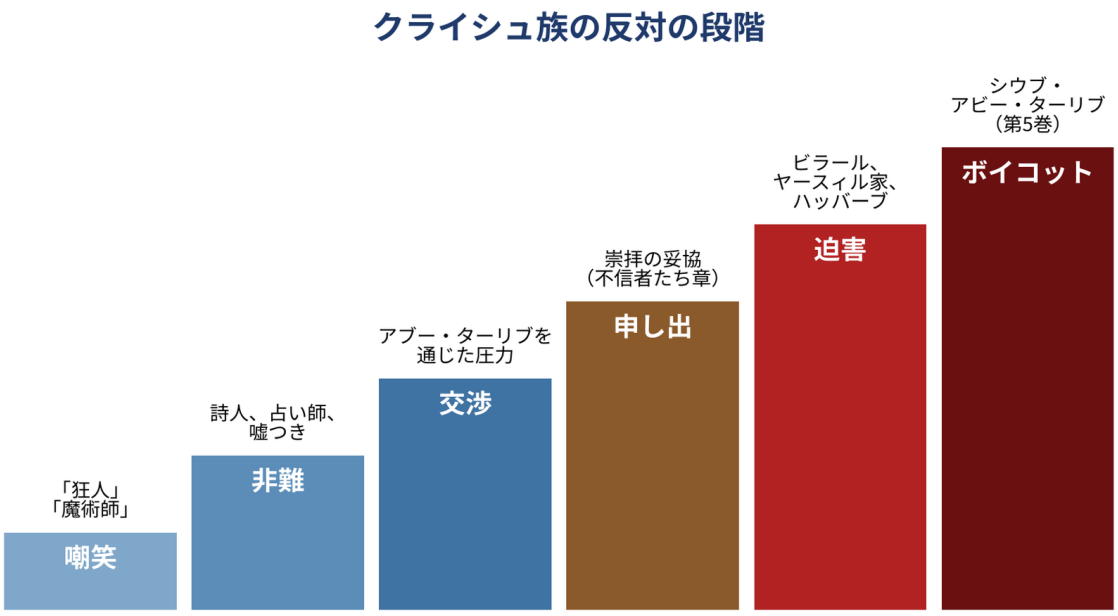


図 2：クライシュ族の反対の段階。

互いに矛盾する非難

これらの非難が**互いに矛盾している**ことに注目してください。狂人は詩人のように美しい言葉を紡ぎません。詩人は占い師のようには話しません。そして魔術師は人々に魔術を捨てるよう呼びかけたりはしません。かれら自身の混乱が、その非難が**根拠のない**ものであることの証拠となっているのです。

教訓：論証に行き詰まると、真理に反対する者は**レッテルと宣伝**に頼ります。ムスリムは、投げつけられた呼び名ではなく、論拠と証拠によって物事を判断する必要があります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ：行き詰まった論法

スィーラの注：巡礼の季節を前にした会議

イブン・カスィールの衣をまとう者章の解釈によれば、マフズーム家の**アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ**は、裕福で尊敬されたクライシュ族の有力者でしたが、クルアーンを聞いて心を動かされました。クライシュ族は心配し、クルアーンに反対する声明を出すようかれに迫りました。

巡礼の季節が近づき、アラブの諸部族がマッカに来ようとしていたとき、クライシュ族は非難の内容を一つにまとめるために会議を開きました。アル＝ワリードは「狂人」「詩人」「占い師」というレッテルはどれも当てはまらないとして退けました。最後にかれは長く考え込み、こう言いました。「**これは伝えられてきた魔術にほかならない。**」

参照：

『イブン・カスィールのタフスィール』74:11–25 https://tafsir.app/ibn-katheer/74/11

クルアーンはその過程を正確に描いています。「**本当にかれは思案し、計画した**」（衣をまとう者章 74:18）。それからかれは眺め、眉をひそめて顔をしかめ、背を向けて高慢になり、「これは伝えられてきた魔術にすぎない」と言ったのです（74:21–24）。

行き詰まった論法

アル＝ワリードの話は、クライシュ族の反対が**理解できなかったからではない**ことを示しています。かれらはクルアーンの偉大さを理解していましたが、**高慢、利害、そして地位**がそれを受け入れることを妨げたのです。

教訓：謙虚さのない知識は信仰へと導きません。多くの人が真理を知りながら、**それに従う代償**を払おうとしないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ターリブを通じた圧力

スィーラの注：アブー・ターリブへのクライシュ族の使節

スィーラ書（イブン・イスハーク）によれば、クライシュ族の有力者たちは何度も**アブー・ターリブ**のもとを訪れ、甥をやめさせるか、自分たちに引き渡すよう求めました。アブー・ターリブは穏やかに断り、預言者を守り続けました。

非常に有名な伝承では、預言者は「**アッラーにかけて、たとえかれらがわたしの右手に太陽を、左手に月を置いたとしても**……」と言われたとされています。この伝承はイブン・イスハークが**途切れのない伝承経路なしに**伝えたもので、アル＝アルバーニーなどのハディース学者はこれを**弱い（ダイーフ）**と評価しています。その意味は正しいのですが、その言葉を確実に預言者のものとすることはできません。

参照：

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

おじの庇護

確かなのは、アブー・ターリブ自身はイスラームに入信しなかったものの、預言者をクライシュ族に**決して引き渡さなかった**ということです。アラブの部族制度では家長の庇護が非常に重要でした。預言者を攻撃することは、ハーシム家全体に挑むことを意味したのです。

アッラーは**既存の社会制度**を用いてその使徒を守られました。教訓：宣教者は、シャリーアに反しない限り、社会の公正な法や制度を活用して宣教を守ることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

妥協の申し出と不信者たち章

脅しがうまくいかないと、クライシュ族は別の方法を試みました。**妥協**です。イブン・カスィールによれば、かれらは、預言者が一年間かれらの神々を崇拝し、かれらは一年間アッラーを崇拝するという案を出しました。その答えは、短く毅然とした一つの章として下されました。

不信者たち章 109:1–6

قُلْ يَٰٓأَيُّهَا ٱلْكَٰفِرُونَ ﴿١﴾

言ってやるがいい。『おお不信者たちよ、

لَآ أَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ ﴿٢﴾

わたしは、あなたがたが崇めるものを崇めない。

وَلَآ أَنتُمْ عَٰبِدُونَ مَآ أَعْبُدُ ﴿٣﴾

あなたがたは、わたしが崇めるものを、崇める者たちではない。

وَلَآ أَنَا۠ عَابِدٌ مَّا عَبَدتُّمْ ﴿٤﴾

わたしは、あなたがたが崇めてきたものの、崇拝者ではない。

وَلَآ أَنتُمْ عَٰبِدُونَ مَآ أَعْبُدُ ﴿٥﴾

あなたがたは、わたしが崇めてきたものの、崇拝者ではない。

لَكُمْ دِينُكُمْ وَلِيَ دِينِ ﴿٦﴾

あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである。

訳：三田了一 — quran.com/109:1-6

不信者たち章の解説

この章は非常に明確な原則で結ばれています。「**あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである**」。イブン・カスィールは、この章が多神崇拝の行いからの**絶縁の宣言**であり、アッラーだけに誠実に仕えるよう命じていると説明しています。『イブン・カスィールのタフスィール』109:6。

項目	立場
信仰と崇拝	妥協なし：崇拝はアッラーだけに。
宗教の強制	強制はない。人はそれぞれ自分の選択に責任を負う（雌牛章 2:256）。
社会的な交わりと善行	戦いを仕掛けてこない非ムスリムに対しては、公正にふるまい善を尽くしてよい（試問される女章 60:8）。

教訓：イスラームは**付き合いにおける寛容**と**信仰における妥協**とを区別します。私たちは他宗教の人々と平和に暮らすことができますが、崇拝を混ぜ合わせることはしません。

カアバのそばで苦しめられたアッラーの使徒ﷺ

クライシュ族の反対は言葉だけにとどまりませんでした。アッラーの使徒ﷺご自身が、カアバのそばで**アッラーにサジダ（平伏）している**最中にさえ、身体的に苦しめられたのです。アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、忘れることのできない出来事を目撃しました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 240 番

حَدَّثَنَا عَبْدَانُ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبِي، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ عَمْرِو بْنِ مَيْمُونٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ، قَالَ بَيْنَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم سَاجِدٌ ح قَالَ وَحَدَّثَنِي أَحْمَدُ بْنُ عُثْمَانَ قَالَ حَدَّثَنَا شُرَيْحُ بْنُ مَسْلَمَةَ قَالَ حَدَّثَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ يُوسُفَ عَنْ أَبِيهِ عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ قَالَ حَدَّثَنِي عَمْرُو بْنُ مَيْمُونٍ أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ مَسْعُودٍ حَدَّثَهُ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم كَانَ يُصَلِّي عِنْدَ الْبَيْتِ، وَأَبُو جَهْلٍ وَأَصْحَابٌ لَهُ جُلُوسٌ، إِذْ قَالَ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ أَيُّكُمْ يَجِيءُ بِسَلَى جَزُورِ بَنِي فُلاَنٍ فَيَضَعُهُ عَلَى ظَهْرِ مُحَمَّدٍ إِذَا سَجَدَ فَانْبَعَثَ أَشْقَى الْقَوْمِ فَجَاءَ بِهِ، فَنَظَرَ حَتَّى إِذَا سَجَدَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَضَعَهُ عَلَى ظَهْرِهِ بَيْنَ كَتِفَيْهِ وَأَنَا أَنْظُرُ، لاَ أُغَيِّرُ شَيْئًا، لَوْ كَانَ لِي مَنَعَةٌ. قَالَ فَجَعَلُوا يَضْحَكُونَ وَيُحِيلُ بَعْضُهُمْ عَلَى بَعْضٍ، وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم سَاجِدٌ لاَ يَرْفَعُ رَأْسَهُ، حَتَّى جَاءَتْهُ فَاطِمَةُ، فَطَرَحَتْ عَنْ ظَهْرِهِ، فَرَفَعَ رَأْسَهُ ثُمَّ قَالَ «اللَّهُمَّ عَلَيْكَ بِقُرَيْشٍ». ثَلاَثَ مَرَّاتٍ، فَشَقَّ عَلَيْهِمْ إِذْ دَعَا عَلَيْهِمْ ـ قَالَ وَكَانُوا يُرَوْنَ أَنَّ الدَّعْوَةَ فِي ذَلِكَ الْبَلَدِ مُسْتَجَابَةٌ ـ ثُمَّ سَمَّى «اللَّهُمَّ عَلَيْكَ بِأَبِي جَهْلٍ، وَعَلَيْكَ بِعُتْبَةَ بْنِ رَبِيعَةَ، وَشَيْبَةَ بْنِ رَبِيعَةَ، وَالْوَلِيدِ بْنِ عُتْبَةَ، وَأُمَيَّةَ بْنِ خَلَفٍ، وَعُقْبَةَ بْنِ أَبِي مُعَيْطٍ». وَعَدَّ السَّابِعَ فَلَمْ يَحْفَظْهُ قَالَ فَوَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ، لَقَدْ رَأَيْتُ الَّذِينَ عَدَّ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم صَرْعَى فِي الْقَلِيبِ قَلِيبِ بَدْرٍ.

訳：

アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه によれば、預言者ﷺがカアバのそばで礼拝しておられたとき、アブー・ジャハルとその仲間たちがそこに座っていた。そのうちの

一人が他の者たちに言った。「誰か、某家の屠られたラクダの胎盤を持ってきて、ムハンマドがサジダしたときにその背中に載せる者はいないか。」すると、かれらの中で最も不幸な者が立ち上がってそれを持ってきた。かれは待ち、預言者 ﷺ がサジダすると、それを預言者の両肩の間の背中に載せた。アブドッラーは言った。「わたしは見ていたが、何もできなかった。もしわたしに守ってくれる者がいたなら。」かれらは互いにもたれかかるほど笑い転げたが、アッラーの使徒 ﷺ は頭を上げずにサジダを続けておられた。やがてファーティマが来て、その汚物を背中から取り除いた。預言者は頭を上げて三度祈られた。「**アッラーよ、クライシュをあなたにお任せします。**」その祈りはかれらにとって重くのしかかった。かれらはその土地での祈りは聞き届けられると信じていたからである。それから預言者は名を挙げて言われた。「**アッラーよ、アブー・ジャハル、ウトバ・ブン・ラビーア、シャイバ・ブン・ラビーア、アル＝ワリード・ブン・ウトバ、ウマイヤ・ブン・ハラフ、ウクバ・ブン・アビー・ムアイトをあなたにお任せします**」――そして七人目の名も挙げられたが、伝承者はそれを覚えていなかった。アブドッラーは言った。「わが魂をその御手に握られる御方にかけて、アッラーの使徒 ﷺ が名を挙げた者たちが、バドルの井戸の中で死んで横たわっているのを、わたしは確かに見た。」

伝承経路 イマーム・ブハーリーが二つの経路で伝える。（1）アブダーン ← その父 ウスマーン・ブン・ジャバラ ← シュウバ。（2）アフマド・ブン・ウスマーン ← シュライフ・ブン・マスラマ ← イブラーヒーム・ブン・ユースフ ← その父 ユースフ・ブン・イスハーク。――両経路とも アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アムル・ブン・マイムーン ← アブドッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』清めの書、ハディース第 240 番。ムスリム（第 1794 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:240

このハディースの教訓

このハディースには三人の姿が描かれています。**アッラーの使徒** ﷺ は忍耐強くサジダを続けられました。**イブン・マスウード**は、部族の後ろ盾のない教友であったため、ただ見ていることしかできませんでした。そして**ファーティマ**――まだ若い娘――は、クライシュ族の有力者たちの前で、勇敢にも父の背中を清めに来たのです。

預言者の祈りは個人的な恨みによるものではなく、かれらが人々をアッラーの道から妨げていたからでした。イブン・マスウードは、数年後にバドルで**かれら全員**が殺されたのを自分の目で見たと誓っています。これは、アッラーの使徒 ﷺ の祈りが聞き届けられたことの証拠です。

教訓：苦しめられても**崇拝において忍耐する**こと、そして、たとえ一人でも**真理を守る**勇気を持つことです。ファーティマ رضى الله عنها のように。

預言者を守ったアブー・バクル

ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、アブドッラー・ブン・アムル رضى الله عنهما に、多神教徒がアッラーの使徒 ﷺ に対して行った最もひどい仕打ちについて尋ねました。アブドッラーは、預言者が礼拝していたときに**ウクバ・ブン・アビー・ムアイト**がやって来て、自分の衣を預言者の首に巻きつけ、**強く締め上げた**のを見たと答えました（『サヒーフ・ブハーリー』3678）。

アブー・バクル رضى الله عنه が来てウクバを押しのけ、こう言いました。「**あなたがたは、『わたしの主はアッラーである』と言うだけで、一人の男を殺そうとするのか。しかもかれは、あなたがたの主からの明証をもって来ているのに。**」

フィルアウンの一族の信者の言葉

アブー・バクルのこの言葉は**クルアーンからの引用**でした。預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ をかばったフィルアウン（ファラオ）の一族の信者の言葉です（赦すお方章 40:28）。緊迫した場面で、アブー・バクルは暴力ではなく啓示の言葉によって、アッラーの使徒 ﷺ を守ったのです。

スィーラ書によれば、アブー・バクル自身も預言者を守り宣教したために、誰だか見分けがつかないほどひどく殴られたことがありました。それでもかれは自分のことより先に、アッラーの使徒 ﷺ の様子を尋ねたといいます。この伝承は**スィーラ書**によるもので、二大真正集にはありません。

教訓：**真の友**とは、困難なときにそばにいる人です。アブー・バクルは信仰しただけでなく、愛する人を守るために危険を引き受ける覚悟がありました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

弱い者たちへの迫害

ハーシム家に守られたアッラーの使徒 ﷺ でさえ苦しめられたのですから、**奴隷や後ろ盾のない人々**はなおさらでした。かれらは最も過酷な迫害を受けました。第3巻でかれらを紹介しましたが、ここではかれらが経験した試練を見ていきます。

スィーラの注：ビラールと「アハド、アハド」

スィーラ書によれば、主人の**ウマイヤ・ブン・ハラフ**は、真昼にマッカの焼けつく砂の上にビラールを寝かせ、胸に大きな石を載せて、偶像崇拝に戻るよう迫りました。ビラールはただ繰り返しました。「**アハド、アハド（唯一なる御方、唯一なる御方）**」。

イブン・マージャ（第 150 番、ハサンと評価）がイブン・マスウードから伝える伝承は、最初にイスラームを公にした七人について述べ、ビラールが**アッラーのためなら自分の身を顧みなかった**ため、かれらはかれをマッカの路地で引きずり回したが、かれは「アハド、アハド」と言い続けたと伝えています。

参照：

ウィキペディア「ビラール・ブン・ラバーフ」。https://en.wikipedia.org/wiki/Bilal_ibn_Rabah

スィーラの注：アンマールと強制に関する節

イブン・カスィールは、**16:106 の節**が**アンマール・ブン・ヤースィル**について下されたと伝えています。かれは拷問を受けて不信の言葉を口にさせられ、泣きながらアッラーの使徒 ﷺ のもとに来ました。預言者がかれの心はどうかと尋ねると、アンマールは、心は信仰によって安らいでいると答えました。この伝承はタフスィール書にあるもので、**二大真正集にはありません。**

参照：

『イブン・カスィールのタフスィール』16:106 https://tafsir.app/ibn-katheer/16/106

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この節は、「**強制されても、心は信仰に安らいでいる者**」に免責を与えています。この節から学者たちは、**命を脅かす強制**のもとでは、心が信仰を保っている限り、言葉の罪は問われないという規定を導きました。『イブン・カスィールのタフスィール』16:106。

一方、アンマールの母**スマイヤ**と父**ヤースィル**は屈しない道を選び、信仰のために殺されました。スマイヤは**イスラームにおける最初の殉教者**となったのです（第 3 巻）。二つの選択はどちらも認められています。軽減（ルフサ）と堅持（アズィーマ）です。

教訓：イスラームは**現実的で慈悲に満ちた**宗教です。殉教者たちの堅固さを尊ぶと同時に、耐えられない者には軽減を与えるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「だが、あなたがたは急いでいる」

長引く迫害のため、一部の教友は訴えに来ました。焼けた鉄で拷問されたことのある鍛冶屋の**ハッバーブ・ブン・アル＝アラット** رضى الله عنه はこう語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3612 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا يَحْيَى، عَنْ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا قَيْسٌ، عَنْ خَبَّابِ بْنِ الأَرَتِّ، قَالَ شَكَوْنَا إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَهْوَ مُتَوَسِّدٌ بُرْدَةً لَهُ فِي ظِلِّ الْكَعْبَةِ، قُلْنَا لَهُ أَلاَ تَسْتَنْصِرُ لَنَا أَلاَ تَدْعُو اللَّهَ لَنَا قَالَ «كَانَ الرَّجُلُ فِيمَنْ قَبْلَكُمْ يُحْفَرُ لَهُ فِي الأَرْضِ فَيُجْعَلُ فِيهِ، فَيُجَاءُ بِالْمِنْشَارِ، فَيُوضَعُ عَلَى رَأْسِهِ فَيُشَقُّ بِاثْنَتَيْنِ، وَمَا يَصُدُّهُ ذَلِكَ عَنْ دِينِهِ، وَيُمْشَطُ بِأَمْشَاطِ الْحَدِيدِ، مَا دُونَ لَحْمِهِ مِنْ عَظْمٍ أَوْ عَصَبٍ، وَمَا يَصُدُّهُ ذَلِكَ عَنْ دِينِهِ، وَاللَّهِ لَيُتِمَّنَّ هَذَا الأَمْرَ حَتَّى يَسِيرَ الرَّاكِبُ مِنْ صَنْعَاءَ إِلَى حَضْرَمَوْتَ، لاَ يَخَافُ إِلاَّ اللَّهَ أَوِ الذِّئْبَ عَلَى غَنَمِهِ، وَلَكِنَّكُمْ تَسْتَعْجِلُونَ».

訳：

ハッバーブ・ブン・アル＝アラット رضى الله عنه は言った。わたしたちは、カアバの陰で外套を枕にしておられたアッラーの使徒 ﷺ に訴えた。わたしたちは言った。「わたしたちのために助けを求めてくださらないのですか。わたしたちのためにアッラーに祈ってくださらないのですか。」預言者は言われた。「**あなたがた以前の民の中には、地に穴を掘られてその中に入れられ、頭にのこぎりを当てられて真っ二つに裂かれた者がいた。それでもかれは自分の宗教から離れなかった。鉄の櫛で梳かれ、骨と神経から肉をはがされた者もいた。それでもかれは自分の宗教から離れなかった。アッラーにかけて、アッラーは必ずこの事業（宗教）を完成なさる。そしてサンアーからハドラマウトまで、旅人がアッラー以外の何ものも恐れず、ただ羊のために狼を心配するだけで旅できるようになる。だが、あなたがたは急いでいる。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← カイス・ブン・アビー・ハーズィム ← ハッバーブ・ブン・アル＝アラット رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、イスラームにおける預言者性のしるしの章、ハディース第 3612 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3612

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ はかれらの苦しみを否定されませんでしたが、**三つのこと**を与えられました。歴史の視点（以前の信者たちはもっと重い試練を受けた）、未来への確信（この宗教は必ず勝利する）、そして優しい戒め（「**だが、あなたがたは急いでいる**」）です。

このハディースには**予告の奇跡**も含まれています。この言葉が語られたとき、ムスリムはマッカで迫害される小さな集団にすぎませんでした。それから二十年足らずのうちに、アラビア半島全体――サンアーからハドラマウトまで――がイスラームの平和のもとに置かれたのです。

教訓：勝利は**必ず訪れます**。ただし、それは私たちの時ではなく、アッラーの定めた時です。忍耐は信仰の一部なのです。

解放のための財産

スィーラの注：自由を買い取ったアブー・バクル

スィーラ書によれば、**アブー・バクル** رضى الله عنه は自分の財産を使って、信仰のために拷問されていた奴隷たちを買い取り、解放しました。その中には**ビラール・ブン・ラバーフ**、**アーミル・ブン・フハイラ**、そして**ズィンニーラ**や**ウンム・ウバイス**といった女性の奴隷たちがいました。

父のアブー・クハーファは「なぜお前を守ってくれる屈強な男たちを解放しないのか」とたしなめました。アブー・バクルは、**ただアッラーのためだけに**そうしているのだと答えました。イブン・カスィールは、夜章の最後の節（92:17–21）がアブー・バクルについて下されたと述べています。

参照：

『イブン・カスィールのタフスィール』92:17–21 https://tafsir.app/ibn-katheer/92/17

この点でのアブー・バクルの地位は、ウマル رضى الله عنه 自身も認めていました。かれは「**アブー・バクルはわたしたちの主人であり、かれはわたしたちの主人を解放した**」と言ったのです。それはビラールのことでした（『サヒーフ・ブハーリー』3754）。

宣教の手段としての財産

アブー・バクルは戦いもせず、仕返しもしませんでした。かれは**財産**を使って、当時の社会の法に従い自由を買い取るという、平和的で正当な方法で問題を解決したのです。この行いは命を救い、人間の尊厳を高めました。

教訓：信者の手にある財産は**解放の道**となりえます。今日、孤児を支え、困窮した人の借金を返し、教育を援助することは、アブー・バクルの模範を受け継ぐものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なぜ彼らは揺るがなかったのか

弱い立場の奴隷たちは、元の宗教に戻れば平穏に暮らせたはずなのに、なぜ拷問に耐えたのでしょうか。スィーラとクルアーンはいくつかの答えを示しています。

理由	説明
信仰の甘美さ	偶像崇拝では一度も味わったことのない、生きる意味を知った。
人間としての尊厳	イスラームはかれらを、他人の所有物ではなく対等な人間として尊んだ。
アッラーの使徒の模範🕋	預言者ご自身が苦しめられながらも、忍耐強く揺るがなかった。
来世の約束	マッカ期のクルアーンは天国と審判の日を数多く描いている。
兄弟愛	ダール・アル＝アルカムで互いに支え合い、誰も一人で試練を受けなかった。
預言者たちの物語	ムーサー、イブラーヒーム、ヌーフの物語は、試練が使徒たちの道であることを示した。

この時期に下された章の多くは短い**マッカ期の章**で、**信仰、来世、預言者たちの物語**に満ちています。クルアーンそのものがかれらの教師となり、心の支えとなったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの法則としての試練

クルアーンはこう戒めています。**「人びとは『わたしたちは信じます』と言うだけで、試みられることなく放っておかれると考えるのか」**（蜘蛛章 29:2）。試練はアッラーの嫌悪のしるしではなく、真実な者と偽る者とをアッラーが**見分ける**方法なのです。

教訓：強い信仰は**知識、模範、兄弟愛、そして来世への希望**によって築かれます。この四つの要素は、今日試練に遭うすべてのムスリムにとって今も必要なものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

星章とともに捧げられたサジダ

この数年の間に驚くべき出来事が起きました。イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ が**星章**を読誦して**サジダ**されると、ムスリムたち、**多神教徒たち**、ジンと人間がともにサジダしたといいます（『サヒーフ・ブハーリー』1071）。

学者たちは、多神教徒もサジダしたのは、**読誦の素晴らしさに心を奪われた**からであり、また「それでアッラーにサジダして、仕えなさい」（星章 53:62）という胸を打つ章の結びのためだと説明しています。かれらはとっさにサジダし、その後また不信に戻りました。

スィーラの注：「ガラーニーク」の話――退けられた伝承

一部の歴史書には、預言者が星章を読誦していたとき、悪魔がクライシュ族の偶像をたたえる言葉を紛れ込ませ、多神教徒たちは喜んでサジダしたという話が載っています。これは「**ガラーニークの話**」として知られています。

イブン・カスィールは、その伝承経路はすべて**ムルサル（途中の伝承者が欠けたもの）**で真正ではないと述べています。多くの学者は、啓示を守るというアッラーの保証（アル・ヒジュル章 15:9）や、偶像への賛辞について**何も述べていない**上記の真正な伝承と矛盾するとして、これを退けています。

参照：

『イブン・カスィールのタフスィール』22:52 https://tafsir.app/ibn-katheer/22/52

教訓：真正な出来事だけで、敵さえもサジダさせる**クルアーンの力**を示すには十分です。啓示の神聖さを汚す話は必要なく、むしろ退けなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

最初のハバシャへの移住

迫害がいっそう激しくなると、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちを守る道を探されました。スィーラ書によれば、預言者はかれらに**ハバシャ（エチオピア）**へ移住するよう勧められました。そこには**誰も虐げない一人の王**がいたからです。

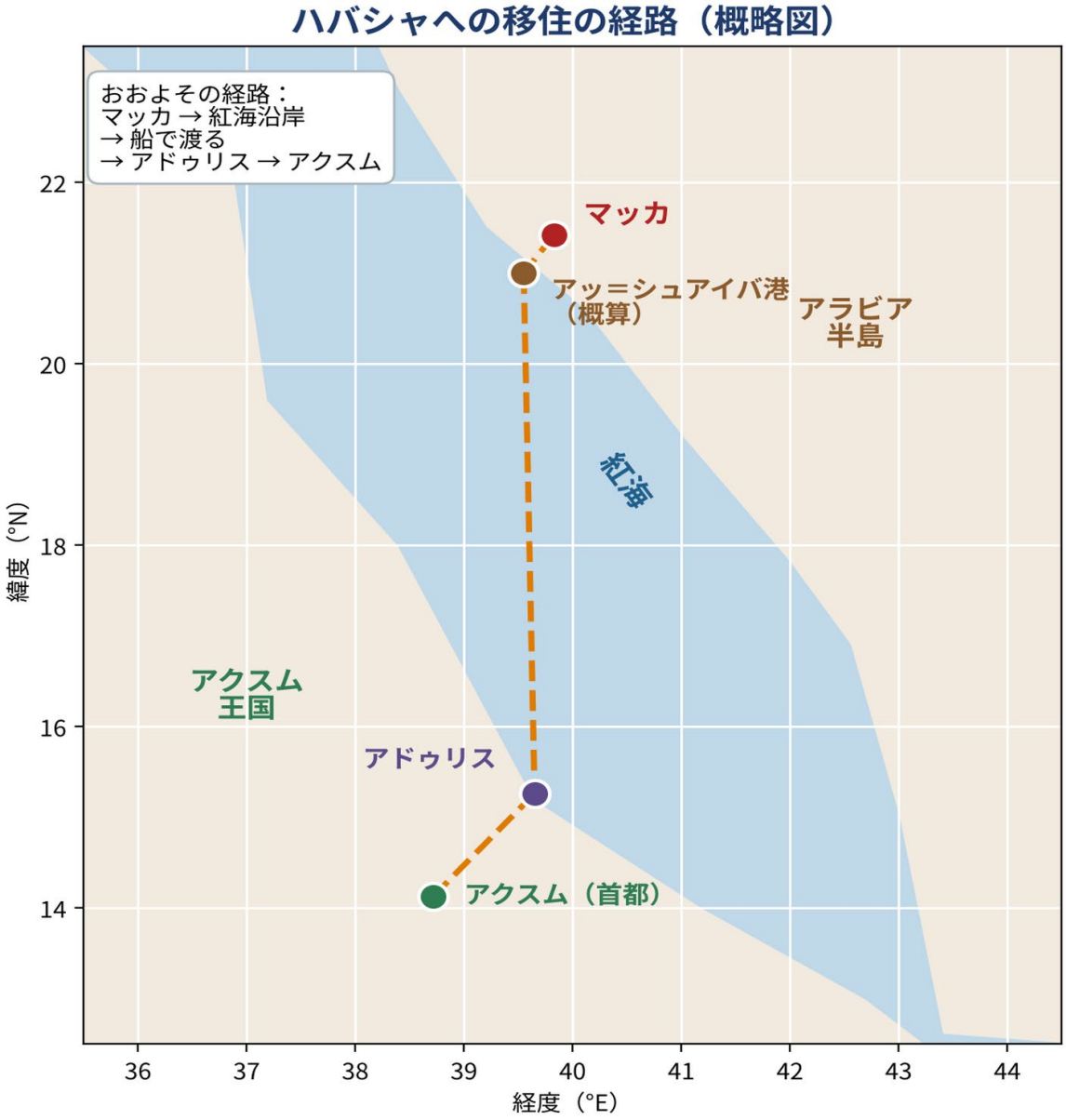
スィーラの注：最初の一団

ウィキペディアによれば、最初の移住は**預言者の使命から 5 年目のラジャブ月（615 年頃）**に行われました。一団は**男性 11 人と女性 4 人**からなり、**ウスマーン・ブン・マズウーン**が率いていました。

その中には**ウスマーン・ブン・アッファーン**とその妻**ルカイヤ**――アッラーの使徒 ﷺ の娘――がいました。かれらはひそかに紅海の海岸へ向かい、船でハバシャへ渡りました。

参照：

ウィキペディア「Migration to Abyssinia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Migration_to_Abyssinia



座標と海岸線は概算。出典：ウィキペディア「Migration to Abyssinia」「Kingdom of Aksum」「Adulis」。

図 3：ハバシャへの移住の経路（概略図）。

イスラームにおける最初の移住

ハバシャへの移住は、マディーナへの移住の**約七年前**に行われました。それは、信仰を守るために故郷を離れることが**預言者たちと教友たちの道（スンナ）**であり、敗北のしるしではないことを示しています。

アッラーの使徒 ﷺ の娘自身も移住したことに注目してください。預言者は宣教の苦難から**自分の家族を除外しませんでした**。これもまた、模範によって導くリーダーシップの一例です。

教訓：住んでいる場所で宗教を実践することがもはや安全でなくなったとき、イスラームは**より安全な場所を求める**ことを認め、むしろ勧めています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アクスム王国：公正な王の国

スィーラの注：アクスム王国

ウィキペディアによれば、**アクスム王国**は、現在のエリトリアとエチオピア北部にあった大きな交易王国で、首都は**アクスム**でした。紅海沿岸の主要な港**アドゥリス**が、この王国をローマ、ペルシア、アラビア、インドと結んでいました。

アクスムは西暦 4 世紀に**キリスト教**を受け入れました。その王は**ナジャーシー**（ネグス）と呼ばれました。教友たちを受け入れた王は、真正なハディースでは**アスハマ**という名で知られています。

参照：

ウィキペディア「Kingdom of Aksum」。https://en.wikipedia.org/wiki/Kingdom_of_Aksum

ウィキペディア「Adulis」。https://en.wikipedia.org/wiki/Adulis

なぜハバシャなのか

要因	説明
公正な王	アッラーの使徒 ﷺ は、その王を誰も虐げない王と呼ばれた（スィーラ書）。
クライシュ族の力の及ばない地	クライシュ族は海の向こうでは政治的影響力を持たなかった。
交易の結びつき	マッカの人々は交易を通じてハバシャをすでに知っていた。
啓典の民	キリスト教は偶像崇拝よりも唯一神信仰に近かった。

この選択は、預言者が**国際的な政治情勢を見極める**知恵を持っていたことを示しています。預言者は最も近い国ではなく、最も安全な国を選ばれたのです。

教訓：ムスリムは**公正な非イスラームの統治者**のもとに保護を求め、協力することができます。公正さは、どこで見いだされても尊ばれるのです。

二度目の移住とクライシュ族の使節

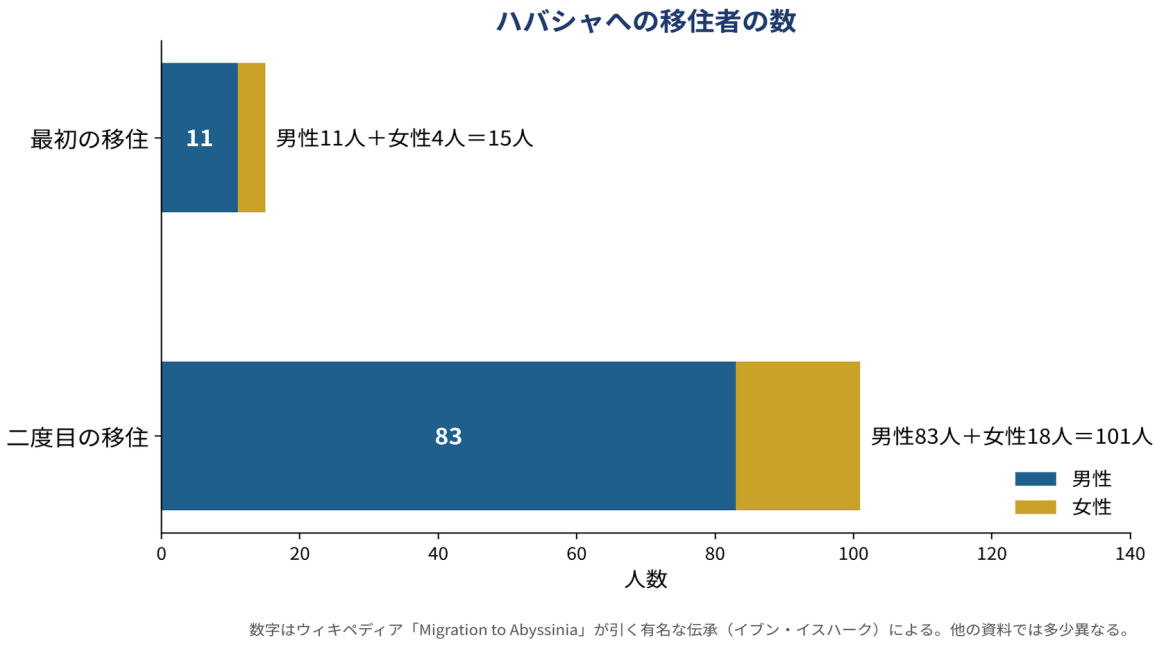
スィーラの注：誤った知らせと第二の一団

ウィキペディアによれば、ハバシャにいた移住者たちは**マッカの人々がイスラームに入信したという知らせ**を耳にしました。一部の者はマッカへ戻りましたが、その知らせが**誤り**だとわかり、より大きな一団とともにハバシャへ戻りました。

第二の一団（**616 年**頃）は、**ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ**が率いました。かれはアッラーの使徒 ﷺ のいとこです。ある伝承によれば、一団は**男性 83 人と女性 18 人**からなっていました。

参照：

ウィキペディア「Migration to Abyssinia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Migration_to_Abyssinia



数字はウィキペディア「Migration to Abyssinia」が引く有名な伝承（イブン・イスハーク）による。他の資料では多少異なる。

図 4：ハバシャへの二つの一団の移住者数。

ナジャーシーの宮廷へのクライシュ族の使節

クライシュ族はかれらを平穏に暮らさせてはおきませんでした。ウィキペディアとスィーラ書によれば、クライシュ族は二人の使節――**アムル・ブン・アル＝アース**と**アブドッラー・ブン・アビー・ラビーア**――に贈り物を持たせてナジャーシーと司祭たちのもとへ送り、移住者たちを引き渡すよう求めました。

ナジャーシーは、移住者たち自身から**説明を聞く前に**かれらを引き渡すことを拒みました。これこそ公正な王の姿です。一方の主張だけで裁くことはしなかったのです。

教訓：**双方の言い分を聞く**ことは公正の基本です。クルアーンもまた、行動する前に知らせを確かめるよう命じています（部屋章 49:6）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナジャーシーの前でのジャアファルの演説

スィーラの注：王の心を変えた演説

この話は、自らも移住した**ウンム・サラマ** رضى الله عنها が『**ムスナド・アフマド**』（第 1740 番）で伝えており、シュアイブ・アル＝アルナウートはその伝承経路を**ハサン（良好）**と評価しています。ジャアファル・ブン・アビー・ターリブはナジャーシーの前に立ち、要約すると次のように述べました。

「王よ、わたしたちはかつて無明（ジャーヒリーヤ）の民でした。偶像を崇拝し、死肉を食べ、醜い行いをし、親族の絆を断ち、隣人を苦しめ、強い者が弱い者を虐げていました。そこへアッラーが、その家柄も、誠実さも、信頼性も、清廉さもわたしたちがよく知る一人の使徒を遣わされました。かれはわたしたちに、唯一のアッラーを崇拝し、真実を語り、預かり物を返し、親族の絆を保ち、隣人に善くするよう呼びかけたのです。」

それからジャアファルは**マルヤム章の冒頭**を読誦しました。ナジャーシーはひげが濡れるほど泣き、司祭たちも泣きました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

二日目の試練：預言者イーサーについて

翌日、アムル・ブン・アル＝アースは、ムスリムが**預言者イーサー** عَلَيْهِ السَّلَامُ について重大なことを言っていると述べて、王の怒りをかき立てようとしました。ジャアファルはクルアーンの教えに従って正直に答えました。イーサーは**アッラーのしもべであり、その使徒であり、かれからの霊であり、その御言葉**であって、清らかなマルヤムに授けられたのだと。

同じ伝承によれば、ナジャーシーは小さな棒切れを取り上げ、自分の信じることとジャアファルの言ったこととの違いは**この棒切れほどもない**と言いました。かれはクライシュ族の贈り物を返し、移住者たちに完全な保護を与えました。

ジャアファルの演説の特徴	教訓
過去について正直である	無明時代の悪を隠さずに認めた。
品性に焦点を当てる	誠実さ、信頼、親族の絆といった普遍的な価値を前面に出した。
クルアーンを読誦する	啓示そのものに心を動かさせた。
信仰の内容を変えない	危険があってもイーサーについての質問に正直に答えた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナジャーシー：葬儀の礼拝を捧げられた王

ナジャーシーは何年にもわたり移住者たちを守り続けました。そして**ヒジュラ暦 9 年**（630 年）、マディーナに胸を打つ知らせが届きました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3877 番

حَدَّثَنَا أَبُو الرَّبِيعِ، حَدَّثَنَا ابْنُ عُيَيْنَةَ، عَنِ ابْنِ جُرَيْجٍ، عَنْ عَطَاءٍ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم حِينَ مَاتَ النَّجَاشِيُّ «مَاتَ الْيَوْمَ رَجُلٌ صَالِحٌ، فَقُومُوا فَصَلُّوا عَلَى أَخِيكُمْ أَصْحَمَةَ».

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った。ナジャーシーが亡くなったとき、預言者 ﷺ は言われた。「**今日、一人の正しい人が亡くなった。立ち上がって、あなたがたの兄弟アスハマのために礼拝しなさい。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブッ＝ラビーウ・アッ＝ザハラーニー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← イブン・ジュライジ ← アターウ・ブン・アビー・ラバーフ ← ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ナジャーシーの死の章、ハディース第 3877 番。ムスリム（第 952 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3877

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ はハバシャの王を「**一人の正しい人**」、「**あなたがたの兄弟**」と呼び、マディーナで教友たちとともに、その場にいない故人のための葬儀の礼拝（ガーイブの礼拝）を捧げられました。これは、ナジャーシーが**イスラームに入信していた**ことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

ハバシャからの最後の移住者たちは、ハイバル征服と同じ **628 年**にマディーナへ帰りました。かれらは約十三年間、公正な王の庇護のもとで平穏に暮らしたのです。

教訓：**善行は忘れられません。**自国で信者たちを守った王は、アッラーの使徒 ﷺ によって尊ばれ、その名は最も真正なハディース集に刻まれました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハムザとウマルの入信

スィーラの注：守護の獅子ハムザ

ウィキペディアによれば、**ハムザ・ブン・アブドルムッタリブ**――アッラーの使徒 ﷺ のおじであり乳兄弟――は、**616 年末**にイスラームに入信しました。狩りから戻ったかれは、**アブー・ジャハル**が甥を罵ったことを知りました。かれはカアバへ行き、弓でアブー・ジャハルを打って預言者を支持すると宣言し、その後ダール・アル＝アルカムで入信したのです。

かれは後に**ウフドの戦い**（625 年）で殉教し、**サイイド・アッ＝シュハダー**（殉教者たちの長）と呼ばれました。

参照：

ウィキペディア「Hamza ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hamza_ibn_Abd_al-Muttalib

まもなく、イスラームに非常に厳しかったもう一人のクライシュ族の有力者が完全に変わりました。**ウマル・ブン・アル＝ハッターブ** رضى الله عنه です。かれの入信がもたらした影響を、アブドッラー・ブン・マスウードはこう述べています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3863 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ كَثِيرٍ، أَخْبَرَنَا سُفْيَانُ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ بْنِ أَبِي خَالِدٍ، عَنْ قَيْسِ بْنِ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ مَسْعُودٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ مَا زِلْنَا أَعِزَّةً مُنْذُ أَسْلَمَ عُمَرُ.

訳：

アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は言った。「**ウマルがイスラームに入信して以来、わたしたちはずっと誇り高く（強く）あり続けた。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・カスィール ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← カイス・ブン・アビー・ハーズィム ← アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه の入信の章、ハディース第 3863 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3863

このハディースの教訓

スィーラ書によれば、ウマルはアッラーの使徒 ﷺ を殺そうとして出かけましたが、妹**ファーティマ・ビント・アル＝ハッターブ**の家に立ち寄り、**ター・ハー章**の読誦を聞いて心が開かれました。この話の詳細は**スィーラ書**によるもので、その伝承の一部は弱いものです。確かなのは、かれの入信と、上記の真正なハディースに示されたその影響です。

ハムザとウマルの入信はマッカの力関係を変えました。ムスリムは**カアバのそばで公然と礼拝する**勇気を持ち始めたのです。しかしそれはクライシュ族の不安も強め、かれらはやがてハーシム家に対する**ボイコット**という、さらに厳しい手段に出ました。

教訓：誰に対しても**決して絶望してはなりません**。今日イスラームに最も厳しい敵が、明日には最も力強い擁護者になるかもしれないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

公然の宣教とハバシャへの移住の時期については、多くの話が世間に広まっています。次の表は、真正なもの、スィーラ書によるもの、弱いもの・退けられたものを区別しています。

話とその評価

有名な話	評価
近親への預言者の呼びかけ：「自分自身を救いなさい」。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』4771）。
サファーの丘での呼びかけとアブー・ラハブの返答。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。
「わたしの右手に太陽を、左手に月を」。	弱い。イブン・イスハークが途切れのない伝承経路なしに伝える。
サジダ中の預言者の背中にラクダの胎盤が置かれた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』240）。
預言者の首を絞めたウクバをアブー・バクルが押しのけた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3678）。
拷問されたビラールが「アハド、アハド」と言った。	ハサン（『スナン・イブン・マージャ』150）およびスィーラ書。
多神教徒が星章とともにサジダした。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』1071）。
「ガラーニーク」の話（偶像への賛辞）。	退けられる。すべての経路がムルサル（イブン・カスィール）。
ナジャーシーの前でのジャアファルの演説。	ハサン（『ムスナド・アフマド』1740）。
ナジャーシーのための不在者の葬儀の礼拝。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。
ウマルが妹の家でター・ハー章を聞いた。	スィーラ書。伝承の一部は弱い。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

省察

アッラーの使徒 ﷺ と教友たちの忍耐についての真正な話だけで、**信仰を強める**には十分です。かれらを敬愛するのに、弱い伝承は必要ありません。

このシリーズの重要な場所

本書は、カアバのそばの小さな丘から、紅海の向こうにある王国の首都までを旅します。この章では、教友たちが信仰を守るために越えた距離を思い描けるよう、それらの場所を一つの表にまとめました。

場所の表

表の距離はカアバからの**直線距離の概算**で、現代の座標から計算したものです。実際の陸路と海路はずっと長くなります。位置がおおよそしかわからない場所には「概算」と記しました。

場所	このシリーズとの関わり	距離／現在の状況
サファーの丘	預言者が立ってクライシュ族の諸氏族に呼びかけた場所（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。	カアバから約 130m。現在はマスジド・ハラームの建物の中にある。
マルワの丘	サファーと対をなす丘。両者の間がサアイ（往復の行）の場所。	サファーから約 450m。現在はマスジド・ハラームの中にある。
アブー・クバイス山	サファーの丘がそのふもとにある大きな山。	マスジド・ハラームの東側に隣接。
カアバとイスマーイールのヒジュル	預言者がサジダ中に苦しめられ（『サヒーフ・ブハーリー』240）、首を絞められた（『サヒーフ・ブハーリー』3678）場所。	聖モスクの中央。
アッ＝シュアイバ港	移住の一団が商船に乗り込んだマッカの古い港。	紅海沿岸、現在のジッダの南（正確な位置は概算）。
アドゥリス	アクスムの主要な港。最初の一団が上陸した可能性が高い場所。	現在のエリトリア沿岸。マッカから約 685km（概算）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	このシリーズとの関わり	距離／現在の状況
アクスム	ナジャーシーの王国の首都。	エチオピア北部。マッカから約 820km、アドゥリスから約 160km（概算）。
ネガシュ	地元の伝承でナジャーシーの墓と結びつけられている村。	エチオピアのティグライ州。マッカから約 840km（概算）。

出典：Wikipedia, “Safa and Marwa”；Wikipedia, “Migration to Abyssinia”；Wikipedia, “Kingdom of Aksum”；Wikipedia, “Negash”。

今日のサファーの丘

ウィキペディアによれば、サファーの丘はカアバの南東約 **130 メートル**、**アブー・クバイス山**のふもとにあり、マルワはカアバの北東約 300 メートルにあります。両者の距離は約 **450 メートル**で、サアイの 7 往復はおよそ 3.15 キロメートルになります。今日では二つの丘はマスジド・ハラームの建物の中にあり、サアイの通路（アル＝マスアー）は冷房が効き、ザムザムの水も用意されています。

巡礼やウムラでサファーからサアイを始める人は皆、アッラーの使徒 ﷺ が「もしわたしが、この谷の向こうに騎馬隊がいると告げたなら……」と人々に呼びかけたその場所に立っているのです。かつて拒絶を目撃した丘が、今ではその呼びかけに応える何百万もの人々を目撃しています。

出典：Wikipedia, “Safa and Marwa”。

教訓

かつて拒絶の証人であった場所も、アッラーの御許しによって受け入れの証人となりえます。宣教者は自分の努力の成果をその日だけで判断しません。サファーで蒔かれた種は、何年も、いや何世紀も後に実を結んだのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

紅海を渡る

ハバシャへの移住は、後のマディーナへの移住のような陸路の旅ではありませんでした。教友たちはひそかにマッカを離れ、海岸へ向かい、海を渡らなければなりませんでした。ラクダの隊商に慣れた多くのマッカの人々にとって、それはなじみのないことでした。

数字で見る紅海

ウィキペディアによれば、紅海の長さは約 **2,250 キロメートル**、最も広いところの幅は約 **355 キロメートル**です。南端には**バーブ・アル＝マンデブ**海峡があり、最も狭いところの幅は約 **26 キロメートル**で、アラビア半島とアフリカ大陸を隔てています。

教友たちの一団はバーブ・アル＝マンデブで渡ったのではなく、マッカ近くのアッ＝シュアイバ港から出航し、対岸のアフリカ沿岸へまっすぐ向かいました。

出典：Wikipedia, “Red Sea”；Wikipedia, “Bab-el-Mandeb”。

スィーラの注：商船と半ディーナールの船賃

イブン・サアドによれば（ウィキペディアの引用による）、最初の一団はアッ＝シュアイバ港へ出て、ちょうど出航しようとしていた二隻の商船を見つけました。かれらは一人**半ディーナール**の船賃でそれに乗り込みました。追ってきたクライシュ族は海岸まで来ましたが、船はすでに出航していました。

歴史家は、一団はおそらくアクスムの主要な港**アドゥリス**に上陸し、そこから陸路で首都へ向かったと述べています。この詳細はスィーラ書や歴史書によるもので、真正なハディースによるものではありません。

出典：Wikipedia, “Migration to Abyssinia”；Madain Project, “Migration to Abyssinia”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アラブとハバシャ：互いをよく知る隣人

マッカの人々にとってハバシャはなじみのない国ではありませんでした。クライシュ族の商人たちはそこを行き来しており、両民族の歴史は古くから結びついていました。ウィキペディアによれば、アクスムのカレブ王は **518 年から 525 年**の間に、キリスト教徒を迫害したズー・ヌワースと戦うためイエメンに軍を送り、アクスムは一時期アラビア半島南部を支配しました。

このハバシャによるイエメン支配の中から現れたのが**アブラハ**で、かれは後に象の年にカアバを破壊しようとしました（第 1 巻参照）。イエメンにおけるハバシャの支配は、570 年代頃にペルシアがこの地を征服したことで終わりました。こうして教友たちが移住する頃には、アクスムとペルシアは競い合う二大勢力となっており、クライシュ族はナジャーシーの宮廷に何の影響力も持っていなかったのです。

出典：Wikipedia, “Kingdom of Aksum”。

実に興味深いことに、かつてカアバを攻撃するためにアブラハを送った王国が、二世代後には、カアバの主を崇拝する人々の避難所となったのです。アッラーはその英知によって状況を一変させられます。

教訓

移住には計画と勇気が必要でした。ひそかに出発し、船賃を払い、なじみのない海を越えることです。タワックル（アッラーへの信頼）とは座って待つことではなく、全力を尽くしたうえで結果をアッラーに委ねることなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の足跡：考古学の記録に見るアクスム王国

アクスム王国はスィーラ書の中の名前にすぎないものではありません。それは、今日も見ることのできる硬貨、碑文、石碑を残しています。この章ではいくつかの確かな事実を取り上げ、なお議論のあることははっきりと示します。

世界の四大勢力の一つ

ウィキペディアによれば、西暦 3 世紀末、マーニー（マニ教の創始者）はアクスムを、ローマ、ペルシア、中国と並ぶ**世界の四大勢力**の一つに数えました。アクスムはエンディビス王の時代（270–310 年頃）に独自の硬貨――金貨、銀貨、銅貨――の発行を始め、アクスムの硬貨はパレスチナのカイサリアや南インドでも見つかっています。

エザナ王は 325–330 年頃にキリスト教に改宗しました。かれの硬貨と碑文には、340 年頃に三日月と円盤の象徴から十字架の象徴への移り変わりが見られます。そのため、教友たちの時代のハバシャは、すでに三世紀近く続くキリスト教王国だったのです。

出典：Wikipedia, “Kingdom of Aksum”。

アクスムの石碑

アクスムの遺跡は **1980 年にユネスコ世界遺産**に登録されました。巨大な彫刻入りの石碑（ステラ）や、王たちの地下墓所で知られています。最大の石碑は、もし立っていれば高さ約 **33 メートル**になると推定されていますが、倒れて折れてしまっています。

出典：World Heritage Site, “Aksum”；Wikipedia, “Kingdom of Aksum”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の注：アルマ王はナジャーシーなのか

アクスムの最後の硬貨は 7 世紀初め頃に発行されたもので、その中には**アルマ**という名の王の名で発行されたものがあります。ウィキペディアによれば、1895 年以来、一部の学者はアルマを教友たちを守ったナジャーシーだと提唱してきました。しかしこの説は**確認されていません**。アルマを別の王と結びつける学者もおり、その治世の年代もなお議論されています。

真正なハディースはナジャーシーの名を**アスハマ**としています（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。アラビア語の資料にはこの名のいくつかの異なる綴りも記録されています。現存する証拠はまだ十分ではないため、本書ではかれを硬貨上のどの名とも同一視していません。

出典：Wikipedia, “Armah”；Wikipedia, “Najashi”。

ネガシュのナジャーシー・モスク

エチオピア北部ティグライ州の**ネガシュ**村には、**ナジャーシー・モスク**として知られる古いモスクがあります。ウィキペディアはネガシュをアフリカ最古のムスリムの集落と記しています。地元の伝承によれば、ナジャーシーは何人かの教友とともにそこに葬られており、ある報告ではその数は十二人とされています。『フトゥーフ・アル＝ハバシャ』は、アフマド・ブン・イブラーヒーム・アル＝ガーズィーが 1537 年頃にその墓を訪れたことを記しています。

このモスクはトルコの機関 TIKA によって 2015 年から 2018 年にかけて修復されましたが、2020 年末に始まったティグライ紛争で大きな被害を受け、再び修復する計画が発表されています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

注：伝承と伝承記録のあいだ

真正なハディースが述べているのは、アッラーの使徒 ﷺ がナジャーシーの死を告げ、その場にいない故人のための葬儀の礼拝を捧げられたということだけです（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。その墓の場所を述べる真正なハディースはなく、ネガシュに葬られたとされる教友たちの名についても確かな伝承はありません。

したがって、ネガシュの墓は**尊重されるべき地元の伝承**であって、確かめられる事実ではありません。それでも、それはムスリムとハバシャの人々との初期の温かい関係の象徴であり続けています。

出典：Wikipedia, “Negash”；Geeska, “Ethiopia’s Najashi Mosque in the Shadow of the Tigray War”。

教訓

考古学は、アクスムがその時代の大国であり、世界の果ての小国ではなかったことを証明しています。アッラーの使徒 ﷺ は、強く、秩序があり、公正な王国へ教友たちを送ることを選ばれたのです。同時に私たちは、伝承を尊重しつつも、それを真正な伝承記録と同一視しないことを学びます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの人物

次の表は、本書の主な人物――反対した者、迫害された者、移住した者、守った者――をまとめたものです。各情報の出典を示し、スィーラ書による情報には「スィーラ書」と記しました。

反対者たち

人物	本巻での役割	典拠
アブー・ラハブ（アブド・アル＝ウッザー）	サファーでの呼びかけを拒んだ預言者のおじ。かれについて棕櫚章が下された。	『サヒーフ・ブハーリー』4770
ウンム・ジャミール（アルワー・ビント・ハルブ）	アブー・ラハブの妻で、アブー・スフヤーンの姉妹。「薪を運ぶ女」と呼ばれる。	棕櫚章 111:4；スィーラ書
アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ	クルアーンの美しさを認めながら、それを魔術だと非難したマフズーム家の指導者。	衣をまとう者章 74:18–25；タフスィール
アブー・ジャハル（アムル・ブン・ヒシャーム）	マフズーム家の最も激しい反対者。バドルの戦いで殺された。	スィーラ書
ウクバ・ブン・アビー・ムアイト	カアバのそばで預言者の首を絞め、アブー・バクルに止められた。	『サヒーフ・ブハーリー』3678
ウマイヤ・ブン・ハラフ	ビラールの主人で、炎天下でかれを拷問した。	スィーラ書
アムル・ブン・アル＝アースとアブドッラー・ブン・アビー・ラビーア	教友たちの送還を求めてナジャーシーの宮廷へ送られたクライシュ族の使節。	『ムスナド・アフマド』1740

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教友たちと保護者たち

人物	本巻での役割	典拠
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	カアバのそばで預言者を守り、ビラールや拷問されていた奴隷たちを解放した。	『サヒーフ・ブハーリー』3678、3754
ビラール・ブン・ラバーフ	唯一神信仰のために拷問され、「アハド、アハド」と言い続けた。	『スナン・イブン・マージャ』150；スィーラ書
ヤースィル、スマイヤ、アンマール	ともに拷問された家族。スマイヤはイスラーム最初の殉教者とされる。	スィーラ書
ハッバーブ・ブン・アル＝アラット	迫害を訴え、預言者は「だが、あなたがたは急いでいる」と言われた。	『サヒーフ・ブハーリー』3612
ウスマーン・ブン・マズウーン	ハバシャへの最初の一団の長。	スィーラ書
ウスマーン・ブン・アッファーンとルカイヤ	最初の一団で移住した者たち。ルカイヤはアッラーの使徒ﷺの娘。	スィーラ書
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	ナジャーシーの前でムスリムを代表して語った人物。	『ムスナド・アフマド』1740
ウンム・サラマ	移住者の一人。ハバシャへの移住の話の伝承者。	『ムスナド・アフマド』1740
ナジャーシー（アスハマ）	教友たちを守ったハバシャの王。預言者は不在者のための葬儀の礼拝を捧げられた。	『サヒーフ・ブハーリー』3877
ハムザ・ブン・アブドルムッタリブ	イスラームに入信してウンマを強めた預言者のおじ。	スィーラ書
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	かれの入信がムスリムに誇りと力を与えた。	『サヒーフ・ブハーリー』3863

教訓

本巻では、さまざまな立場の人々を見てきました。反対したおじ、忍耐強い奴隷、人々を解放した商人、そして公正な異国の王。尊さの基準は家柄や地位ではなく、真理に対するその人の態度なのです。

年表：スィーラと世界

次の表は、本書の出来事を同じ時代の世界の大きな出来事と並べたものです。西暦の年は概算で、いくつかの出来事の正確な年代については歴史家の間でも意見が分かれています。

年（概算）	マッカとハバシャで	周辺の世界で
518–525 年	—	アクスム（カレブ王）がイエメンのヒムヤルを攻撃。
570–575 年頃	象の年。アッラーの使徒 ﷺ の誕生（第 1 巻）。	ペルシアがイエメンにおけるアクスムの支配を終わらせる。
西暦 613 年ごろ	公然の宣教の命令。サファーの丘での呼びかけ。	ペルシアがローマからアンティオキアとダマスカスを奪う。
614 年頃	嘲笑、非難、迫害が激しくなる。	ペルシアがエルサレムを奪い、「真の十字架」をクテシフォンへ運ぶ。
預言者の使命から 5 年目のラジャブ月（615 年頃）	最初のハバシャへの移住：男性 11 人と女性 4 人（男性 12 人とする伝承もある）。	—
616 年頃	ジャアファルの率いる二度目の移住。クライシュ族の使節は退けられる。ハムザとウマルの入信。	—
618–619 年	クライシュ族の圧力が続く（第 5 巻）。	ペルシアがエジプトとアレクサンドリアを奪う。
ヒジュラ暦 7 年／628 年	ジャアファルの一団がハイバル征服のときにマディーナに到着（『サヒーフ・ブハーリー』4230）。	ローマ・ペルシア戦争が終わり、ローマが領土を取り戻す。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年（概算）	マッカとハバシャで	周辺の世界で
ヒジュラ暦 9 年／630 年	ナジャーシーの死。預言者が不在者のための葬儀の礼拝を捧げられる（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。	—

出典：Wikipedia, “Byzantine–Sasanian War of 602–628”；Wikipedia, “Kingdom of Aksum”；Wikipedia, “Migration to Abyssinia”。

教友たちがマッカで迫害されていた頃、世界の二大勢力――ローマとペルシア――は激しく戦っていました。この時期のローマの敗北こそが、ローマの勝利を「数年のうちに」と約束するビザンチン章 30:2–4 の背景です。その約束は、628 年頃にローマが領土を取り戻したことで果たされました。

教訓

当時の世界は、互いの戦いに明け暮れる大帝国に支配されていました。マッカで迫害され、商船で移住した小さな集団が世界の歴史を変えるとは、誰も思いませんでした。真理を固く守る小さな集団を決して侮ってはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

よくある質問

以下は、公然の宣教とハバシャへの移住の時期についてよく尋ねられる質問と、本書の資料に基づく簡潔な答えです。

1. なぜ公然の呼びかけはサファーの丘で始められたのですか。

サファーの丘はクライシュ族が集まるカアバのそばにありました。アラブの慣習では、危険を知らせたい者は高い場所に登って叫びました。預言者は人々が理解できる方法を用いられたのです（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

2. なぜ預言者はまず「あなたがたはわたしを信じるか」と尋ねられたのですか。

預言者は警告を伝える前に、かれらが認めていること――ご自分の誠実さ――から始められました。かれらは、預言者が嘘をついたことは一度もないと答えました。これは賢明な宣教の方法です。合意できる土台の上に築くのです。

3. イスラームにおける最初の殉教者は誰ですか。

スィーラ書によれば、アンマール・ブン・ヤースィルの母スマイヤ・ビント・ハイヤートが、イスラームにおける最初の殉教者です。かの女は宗教を捨てることを拒んだため、アブー・ジャハルに殺されました。この情報はスィーラ書によるもので、二大真正集にはありません。

4. 拷問の中で不信の言葉を口にしたアンマールは罪を犯したのですか。

いいえ。アッラーは、強制されても心が信仰に安らいでいる者を例外とされています（蜜蜂章 16:106）。タフスィール書の伝承によれば、この節はアンマールの出来事に関わるものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. ハバシャへ移住したのは何人ですか。

最初の一団は男性約 11 人と女性 4 人からなっていました（男性 12 人とする伝承もあります）。二度目の移住について、イブン・イスハークは 80 人を超える男性と、何人かの女性と子どもたちを挙げています。

6. なぜ当時マディーナへ移住しなかったのですか。

当時、ヤスリブ（マディーナ）の住民はまだイスラームに入信しておらず、クライシュ族はアラビア半島全域に影響力を持っていました。一方ハバシャはクライシュ族の力の及ばない地にあり、公正な王が治め、交易を通じてすでに知られていました。

7. ナジャーシーはムスリムだったのですか。

はい。アッラーの使徒 ﷺ はかれの死を告げ、かれを「正しい人」と呼び、教友たちとともに不在者のための葬儀の礼拝を捧げられました（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。

8. ナジャーシーの本名は何ですか。

ナジャーシー（ネグス）はハバシャの王の称号であって、個人名ではありません。真正なハディースはこの王の名をアスハマとしています（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。一部の学者はかれをアクスムの硬貨上の王名と結びつけようとしてきましたが、まだ確かではありません。

9. ナジャーシーの墓はどこにありますか。

エチオピアの地元の伝承では、その墓はティグライ州のネガシュにあるとされています。しかし、その場所を述べる真正なハディースはありません。本書の「歴史の足跡」の章を参照してください。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

10.「ガラーニーク」の話は本当ですか。

いいえ。預言者が星章を読誦したときに偶像を賛美したという話は、すべての経路がムルサルであり、アッラーの使徒 ﷺ の無謬性と矛盾するため、学者たちに退けられています。真正なのは、預言者がその章を読誦したときに多神教徒もサジダしたということだけです（『サヒーフ・ブハーリー』1071）。

11. なぜウマルの入信はそれほど重要だったのですか。

アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は「ウマルがイスラームに入信して以来、わたしたちはずっと誇り高くあり続けた」と言いました（『サヒーフ・ブハーリー』3863）。ウマルとハムザの勇気は、それまで弱く虐げられていたムスリムに力を与えたのです。

12. ハバシャへの移住者たちはいつ帰ってきたのですか。

一部の者は早くにマッカへ戻り、その後マディーナへ移住しました。一方ジャアファル・ブン・アビー・ターリブの一団は、ヒジュラ暦 7 年に預言者がハイバルを征服したときにマディーナに到着しました（『サヒーフ・ブハーリー』4230）。かれらがマッカを離れてから約十五年後のことです。

教訓

真正な資料に基づく答えは一つひとつが確信を強め、根拠のない話から私たちを遠ざけてくれます。問い続け、読み続けましょう。アッラーの使徒 ﷺ のスィーラは、単なる歴史物語ではなく、生きるための指針なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

本書からの教訓

第一：命令には保証が伴う。 「宣べ伝えよ……われはあなたを守る」（15:94–95）。

第二：一人ひとりが自分自身に責任を負う。 家柄は人を救わない（『サヒーフ・ブハーリー』4771）。

第三：相手が認めていることから始める。 預言者は警告の前にご自分の誠実さについて尋ねられた（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

第四：信仰に妥協はない。 「あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教がある」（109:6）。

第五：苦しめられても忍耐する。 預言者は侮辱されてもサジダを続けられた（『サヒーフ・ブハーリー』240）。

第六：勝利はアッラーの時に訪れる。 「だが、あなたがたは急いでいる」（『サヒーフ・ブハーリー』3612）。

第七：人を解放するための財産。 アブー・バクルはビラールらを解放した（『サヒーフ・ブハーリー』3754）。

第八：公正さはどこでも尊ばれる。 ナジャーシーは「正しい人」として尊ばれた（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。

第九：誰に対しても絶望しない。 ウマルはウンマの力となった（『サヒーフ・ブハーリー』3863）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

時期（推定）	出来事と典拠
西暦 613 年ごろ	公然の宣教の命令（15:94；26:214）。サファーでの呼びかけ（『サヒーフ・ブハーリー』4770、4771）
613–615 年	嘲笑、非難、妥協の申し出（不信者たち章）
613–616 年	預言者が苦しめられる（『サヒーフ・ブハーリー』240、3678）。弱い者たちへの迫害
615 年頃	スマイヤの殉教（ウィキペディア）
使命から 5 年目のラジャブ月	最初のハバシャへの移住：男性 11 人、女性 4 人
616 年頃	ジャアファルの率いる二度目の移住。クライシュ族の使節は退けられる
616 年末	ハムザとウマルの入信（『サヒーフ・ブハーリー』3863）
ヒジュラ暦 9 年／630 年	ナジャーシーのための不在者の葬儀の礼拝（『サヒーフ・ブハーリー』3877）

結び

サファーの丘での呼びかけから、預言者がサジダ中に苦しめられたカアバ、ビラールが「アハド、アハド」と言った焼けつく砂、そして紅海の向こうの公正な王の宮廷まで――イスラームの宣教は**忍耐と犠牲**によって試されました。アッラーがお望みなら、『**預言者伝**』シリーズは、**シウブ・アビー・ターリブでのハーシム家のボイコット**、**悲しみの年**、そして預言者のターイフへの旅へと続きます。アッラーこそが最もよく知っておられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈』（15:94–95；109；74:11–25；16:106；92:17–21；22:52）。https://tafsir.app/ibn-katheer/15/94

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』240、1071、3612、3678、3754、3863、3877、4770、4771。https://sunnah.com/bukhari

『スナン・イブン・マージャ』150。https://sunnah.com/ibnmajah:150

『ムスナド・アフマド』1740（ハバシャへの移住についてのウンム・サラマの伝承）。

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）――公然の宣教、クライシュ族の反対、ハバシャへの移住の章。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――公然の宣教とハバシャへの移住の章。

ウィキペディア「Abu Lahab」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Lahab

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「ビラール・ブン・ラバーフ」。https://en.wikipedia.org/wiki/Bilal_ibn_Rabah

ウィキペディア「スマイヤ」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sumayya

ウィキペディア「Migration to Abyssinia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Migration_to_Abyssinia

ウィキペディア「Kingdom of Aksum」。https://en.wikipedia.org/wiki/Kingdom_of_Aksum

ウィキペディア「Adulis」。https://en.wikipedia.org/wiki/Adulis

ウィキペディア「Hamza ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hamza_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「Umar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umar

場所、歴史、考古学

ウィキペディア「Safa and Marwa」。https://en.wikipedia.org/wiki/Safa_and_Marwa

ウィキペディア「Red Sea」。https://en.wikipedia.org/wiki/Red_Sea

ウィキペディア「Bab-el-Mandeb」。https://en.wikipedia.org/wiki/Bab-el-Mandeb

Madain Project「Migration to Abyssinia」。https://madainproject.com/migration_to_abyssinia

ウィキペディア「Armah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Armah

ウィキペディア「Najashi」。https://en.wikipedia.org/wiki/Najashi

ウィキペディア「Negash」。https://en.wikipedia.org/wiki/Negash

Geeska 「 Ethiopia's Najashi Mosque in the Shadow of the Tigray War 」 。 https://www.geeska.com/en/ethiopias-najashi-mosque-shadow-tigray-war

World Heritage Site「Aksum」。https://www.worldheritagesite.org/list/aksum

ウィキペディア「Byzantine–Sasanian War of 602–628」。https://en.wikipedia.org/wiki/Byzantine%E2%80%93Sasanian_War_of_602%E2%80%93628

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

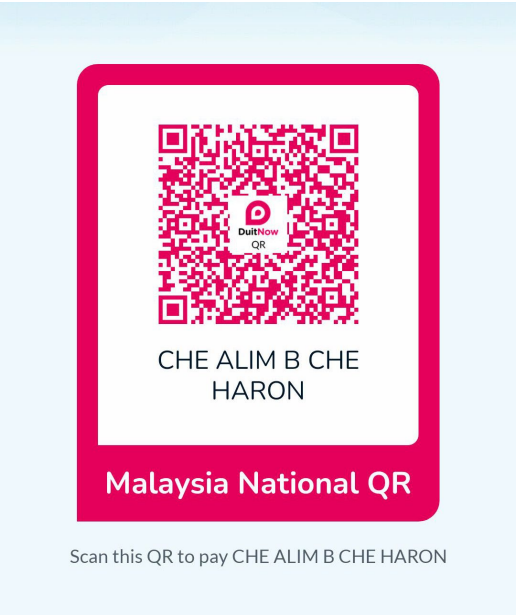
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience